医療タイムス Healthcare Times
2004年VOL.2180
1月20日(火曜日)
(毎月1日・10日・20日発行)

信大医学部

知的財産を管理・運用

4月にセンター開設

信大医学部（大橋俊夫学部長）は「医学部知的財産活用センター」を4月1日に設置する。同日からの国立大学法人への移行で、外部資金の導入が課題となる中、法人の持つ知的財産を管理・運用し、産学官連携の窓口の機能を果たす。センター長には大橋学部長が就任し、「特任教授」として元医学部長で3月末で定年退官する千葉茂俊分子薬理学教授をあてる。

大橋学部長は「全学の産学官連携推進本部（プロジェクトリーダー・大橋学部長）と相補的な関係と位置付け、地域社会や企業・経済活動の活性化にもつなげたい」と話している。

同センターは昨年秋に竣工した旭総合研究棟2階のインキュベーション実験室に開設。現在各教官が持つ特許や学外への講師派遣など、法人が持つ知的財産を一元的に管理・運用し▽知財活用戦略の企画・立案▽知財の創出サポート事業▽知財の法的な環境整備と管理▽教職員への知財の啓発・普及・公開▽医学部発ベンチャー企業の育成・支援―などを進める。

大橋学部長は当面の取り組みとして「旭総合研究棟のIT機能を活用して修士の授業をオンラインやVTRで配信し、開業医などの医師卒後研修に役立てたい」としている。

大橋センター長、千葉特任教授のほか、併任教員（助手）に松原伸宏・臓器発生制御医学助手、非常勤のコーディネーターに倉科香一・キッセイ薬品工業取締役知的財産部長をあて、教授会メンバーで組織する運営委員会を設置する。

「循環器病再生医学」寄付講座もスタート

「知財活用センター」事業の一環として4月から、同部では初めての「寄附講座」を開設する。大塚製薬から年額2000万円の奨学寄付金を得て、大学院医学研究科の臓器移植・再生工学医科学系専攻に「循環器病再生医学講座」をスタートさせる。

スタッフは臓器発生制御医学講座の池田宇一教授（併任）と助教授、助手各1人、助教授、助手は今後大塚製薬も含め内外から選任する。期間は今年4月から07年3月までの3年間。同講座の研究で得られた成果や実用化に向けたノウハウを優先的に大塚製薬に提供する。大橋学部長は「今回の寄附講座は、大塚製薬が世界の臓器移植にまつわる再生医学を高く評価してくれたものと受け止めている」とし、今後も寄附講座の開設をめざしていく方針だ。

池田教授、天野純教授（心臓血管外科）らのグループは昨年11月、自己骨髄移植による四肢の血管再生療法に成功、今後は同療法の心疾患への応用を計画している。池田教授は「寄附講座では臨床と協力しながら、心臓の再生とそれを裏付ける研究、心筋梗塞など生活習慣病の病態・予防の基礎研究を行いたい。大塚製薬との共同で循環器系の薬剤開発も視野に入れている」と話している。

大橋医学部長と池田教授